

デーヴァナーガリー文字

町田 和彦

デーヴァナーガリー文字は、歴史的には、北方系のブラーフミー文字であるグプタ文字から発展し9世紀頃から北インドで普及しはじめたナーガリー文字の流れをくむ文字です。北インドでは、それ以前は、中国を経て仏教とともに日本に伝えられた梵字（悉曇文字）が主に使われていました。10世紀以降、広く使われるようになったナーガリー文字を神聖化して、「神」を表すデーヴァがつけられたと言われていました。今日でもデーヴァナーガリー文字を、短くナーガリー文字とすることがあります。ナーガリーの名称の起源はさまざまな説がありますが、ナガラ「町、都市」と関係があるとされます。

デーヴァナーガリー文字を使用する主な言語は、インドの公用語であるヒンディー語（約4億人）、インドのマハラシュトラ州の公用語であるマラーティー語（約7000万人）、ネパールの国語ネパール語（約1600万人）です。サンスクリットなどの古典語の表記にも使われます。

1950年1月26日に発効したインド憲法の第343条1項には「連邦レベルの公用語はデーヴァナーガリー文字で表記されるヒンディー語であること」ただし「数字はインド数字の国際形（いわゆるアラビア数字：筆者注）を使用する」とあります。多言語・多文字国家インドの「公用文字」的性格がデーヴァナーガリー文字に付与され、1966年には、インドのすべての言語を表記するために「拡張デーヴァナーガリー文字」が考案されましたが、意図されたほど普及はしませんでした。

現代ヒンディー語を表記するデーヴァナーガリー文字は、本来の文字の他に、外来音や歴史的に発達した新しい音を表すためにヌクターとよばれる点を子音字の下部に付加します。詳しくは、参考文献を参照してください。

インドでは、言語と文字、言語と宗教がいつも一致しているとは限りません。下にあげた挨拶の言葉「こんにちは」は、ヒンディー語を話すヒンドゥー教徒が使用します。

नमस्ते

文字を分解すると

न म स् ते
na ma s te

となります。

この言葉は便利で、朝昼晩、また会うとき別れるときを問わず、いつでも使うことができます。語頭の namas は、お経の「南無妙法蓮華経」の南無と関係があり、サンスクリットで「敬礼」の意味です。

[参考文献]

- 田中敏雄「インド系文字の発展」、『世界の文字』（西田龍雄編）、講座言語 第5巻、大修館書店、pp.181 - 210, 1981.
- 田中敏雄・町田和彦『エクスプレス・ヒンディー語』、白水社、1986.
- 町田和彦『書いて覚えるヒンディー語の文字 デーヴァナーガリー文字入門』、白水社、1999.

(町田和彦編著『華麗なるインド系文字』白水社2001, pp. 168-169より転載)